



# UXイノベーションハブ 基本構想【概要版】

令和6年7月 熊本県

# UXプロジェクトについて

- 本県経済が将来にわたり、持続的に発展していくためには、半導体・自動車関連産業に続く「**第3の柱**」となる**新たな産業の創出**が必要。
- そのため、**空港周辺地域を拠点に、熊本の強みであるライフサイエンス分野※を中心として、ビジネス創出の好循環（エコシステム）形成を目指す「UXプロジェクト」を推進。**

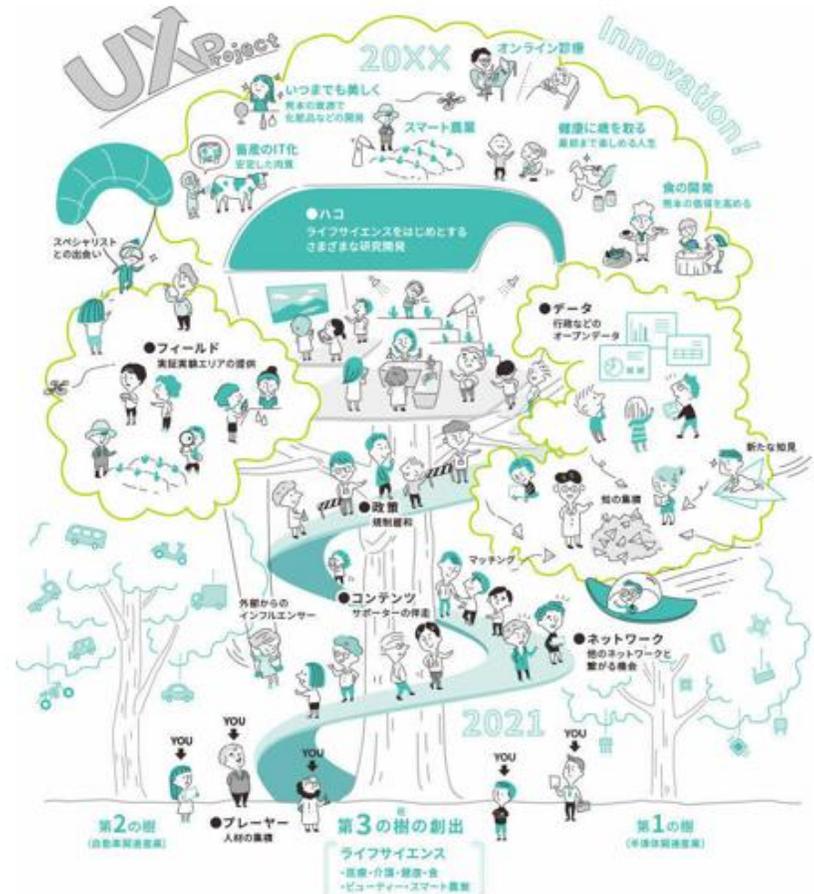
※本プロジェクトにおけるライフサイエンス分野は、医療・介護・健康・食・ビューティー・スマート農業等を指す。

## 「UXに込めた想い」

UX	YOU	身近な人から世界中の人々を「あなた」と表現
	結う	人と人、人と技術、人と情報を「結び」つける
	熊（ゆう）	熊本発の価値を追求する
	CROSS	人と人、人と技術、人と情報をかけ合わせる
	未知	これから起こる未知のイノベーション

## UXプロジェクトとは？

- ▶ 熊本県経済が将来にわたり、持続的に成長していくためには、半導体関連産業及び自動車関連産業に続く「**第3の柱**」となる**新たな産業創出**が必要
- ▶ **空港周辺地域を拠点に、熊本県の強みであるライフサイエンス分野\*を中心として、ビジネス創出の好循環（エコシステム）形成を目指す「UXプロジェクト」を推進**



# UXプロジェクト基本計画・実施計画（第1期）について

- 令和2年度から、**外部有識者を交えた委員会で、3つの構想・計画を策定**。今後10年間の基本的な考え方や重要な取組みを整理するとともに、直近の4年間で集中的に行う取組みを具体化。
- UXプロジェクトにて取り組むテーマを7つ定めており、その1つとして「**7 ハコ：プレイヤーの交流や共同実験を行うための施設を提供**」を設定。

## 1. 背景と目指す姿

### ① 50年、100年後を見据えた新たな産業の柱の必要性

- ・ 県経済の持続的発展のため、半導体、自動車関連に次ぐ、県内産業の新たな柱が必要

### ② ライフサイエンス分野における熊本県の強み

- ・ 水資源など豊富な天然資源、全国トップクラスの農業生産
- ・ 理工系の大学等から多数輩出される産業人材
- ・ 創薬の研究等医療・薬学分野での高度な研究
- ・ 医療、健康、食品等の分野のベンチャー企業の活躍

### ③ 阿蘇くまもと空港周辺地域における拠点性の高まり

- ・ 半導体や自動車関連分野を中心に数多くの企業が立地
- ・ 「大空港構想Next Stage」の取組み

本プロジェクトの  
目指す姿

ライフサイエンス分野を中心とした  
県内産業の「第3の柱」の創出

## 2. 10年間の取組みの方向性

### 【阿蘇くまもと空港周辺地域を拠点とした「知の集積」】

全国から起業家・企業・研究者等が集い、生まれることによる賑わいの創出

## 3. 基本計画と実施計画の策定

・ 県内産業の「第3の柱」の創出に向けた長期にわたる取組みを計画的に推進

【基本計画】：UXプロジェクトの基本的な考え方と重要な取組みを整理

（期間）令和3年度～令和12年度までの10年間

【実施計画】：基本計画に掲げた取組みを具体化

（期間）令和3年度～令和6年度までの4年間



## 4. 具体的な取組みの推進

### 基本計画（令和3年度～12年度）

#### 1 プレイヤー

UXプロジェクトに参画するプレイヤーを育成、誘致

- ・ スローガンの対外発信等による人材の発掘と呼び込み

- ・ 人材育成プラットフォームの構築と運用

#### 2 ネットワーク

プレイヤーに対して、企業・研究機関等とつながる機会を提供

- ・ オープンイノベーションプログラムと実証実験機会の提供

- ・ つながる機会とクロスする場を通じた連携関係の構築

- ・ 専門人材（コーディネータ）の配置による連携の促進

#### 3 コンテンツ

各段階に応じて伴走する体制「チーム熊本」の整備、アイデア創出段階から支援する仕組みの構築

- ・ 支援体制「チーム熊本」の組成及び連携したサポートの実施

- ・ 資金供給体制の整備

- ・ アイデア創出のための学生・研究者向けプログラムの提供

#### 4 フィールド

実証実験の場を提供

- ・ 実証実験フィールドの提供（規制緩和の見直し）

#### 5 データ

ビジネスに結びつくデータにアクセスできる体制を整備

- ・ データ連携基盤の構築

- ・ 県医師会・熊大との連携体制構築

- ・ 県・市町村・企業等有する各種データとの連携

#### 6 政策

行政としての継続的支援

- ・ 行政側の長期的な支援体制の整備

#### 7 ハコ

プレイヤーの交流や共同実験を行うための施設を提供

- ・ 新たな施設（イノベーションハブ、コワーキングエリア、共同実験エリア）の整備

### 実施計画（令和3年度～6年度）

- ・ 各種イベントの開催
- ・ 影響力のある人材等の招聘
- ・ 企業等の誘致
- ・ UXプロジェクト会員登録制度の創設

- ・ ビジネスプロデューサー人材の育成
- ・ データサイエンティスト人材の育成
- ・ 各種人材育成施策との連携

- ・ 企業等の協業に係る支援
- ・ ビジネス創出支援
- ・ 技術の磨き上げ等の支援

- ・ イノベーションハブの整備
- ・ オンラインコミュニティの形成
- ・ 県外、国外とのネットワークの構築

- ・ 専門人材の配置
- ・ 企業・団体との連携による機能の確保

- ・ 支援企業・団体の集積（会員登録制度）
- ・ チーム熊本の組成の推進
- ・ 若手研究者に対する支援
- ・ 資金供給体制の整備

- ・ アイデア提案・実践プログラムの実施
- ・ アイデアやデータの蓄積と活用

- ・ データ連携基盤の構築に係る設計
- ・ ガイドラインの検討

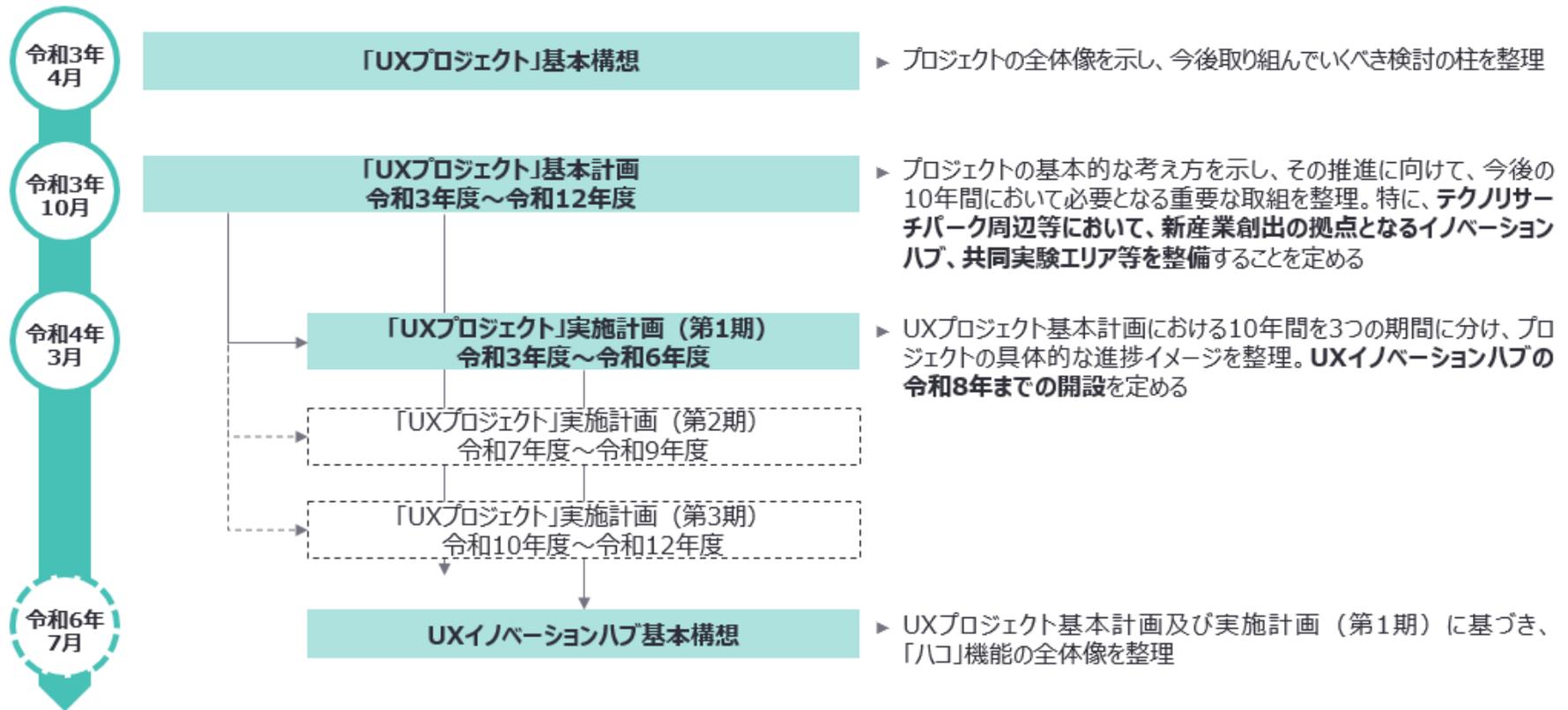
- ・ データ活用手順・手続きの整備
- ・ データの匿名化手続きの検討
- ・ KMNの研究開発等への試行運用

- ・ 健康データを活用したプロジェクト・市町村等の健康データとの連携の検討
- ・ 行政データとの連携の検討

- ・ イノベーションハブの整備
- ・ 大学、産業支援機関等との連携
- ・ 既存施設の利用による場の早期提供
- ・ テクノリサーチパークの賑わいの創出

# UXプロジェクトの各構想・計画における「ハコ」の記載について

- 基本計画、実施計画（第1期）の中で、「テクノリサーチパーク周辺等においてイノベーションハブを整備」、「令和8年度までの開設予定」であることを示している。
- UXイノベーションハブの機能の全体像、整備方針を記載した「UXイノベーションハブ基本構想」を本年7月に公表予定。



## ※イノベーションハブ

革新的な製品・サービス等を生み出し、それらを市場展開しうる科学的知見・技術的知見・社会科学的知見等、幅広い分野の知恵や技術を有する、企業を中心とするイノベーションの「主役（leading actors）」が集う基盤

## (参考) 他県の参考事例 (福岡市 : Fukuoka Growth Next)

- 官民が連携して運営する次世代の創業支援施設「Fukuoka Growth Next」は、福岡市立大名小学校の廃校をリノベーションする形で整備され、平成29年より開設。
- 個室オフィス、シェアオフィス、コワーキングスペース、イベントスペース、会議室、カフェ等の機能を持ち、多くのスタートアップ企業等が集まる場所。オープンで心地よい空間をもって、多くのコミュニケーションやアイデアを創出。

(施設外観)



(個室・シェアオフィス)



(コワーキングスペース)



(イベントスペース)



(会議室)



(カフェ)

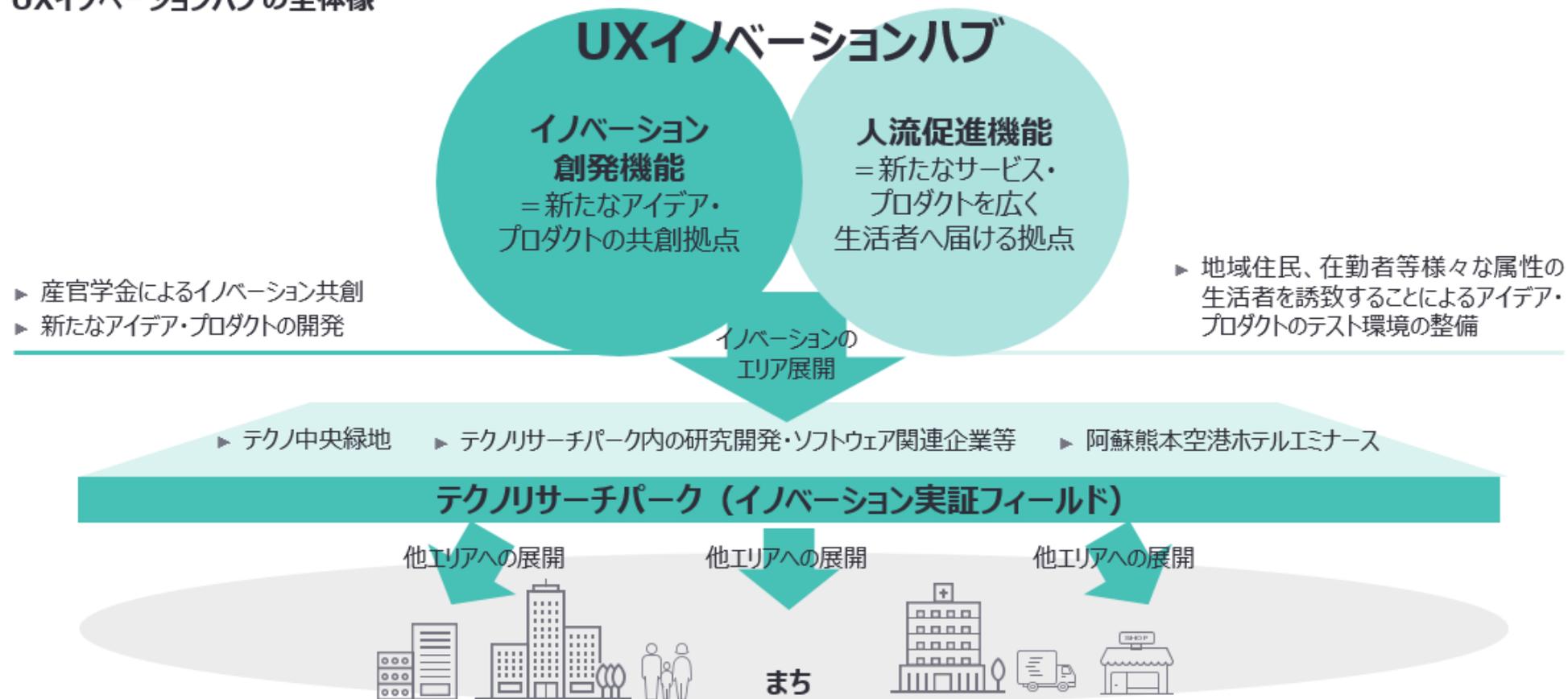




# UXイノベーションハブの全体像について

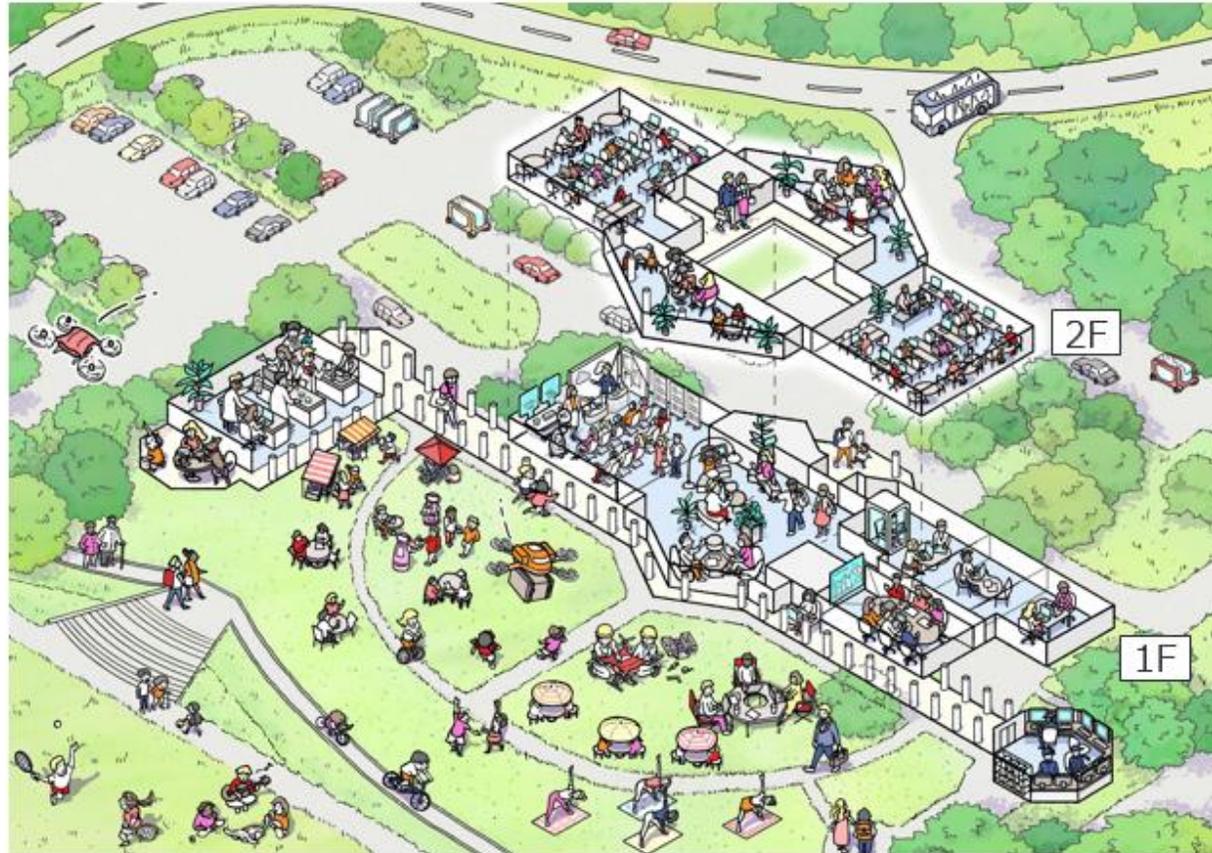
- UXイノベーションハブは、「起業家、企業、研究者等による研究開発」、「人と人、技術と技術のリアルな交流」を目指した拠点として整備。
- 新たなアイデア・プロダクトの共創拠点としての「**イノベーション創発機能**」、新たなサービス・プロダクトを広く生活者へ届ける拠点としての「**人流促進機能**」の2つをもってハブの全体像を設定。

## UXイノベーションハブの全体像



# UXイノベーションハブの機能・ゾーニングイメージ

- UXイノベーションハブの具体的な機能としては、「コワーキングスペース」、「展示・イベントスペース」、「専用オフィス・ラボ」、「共同ラボ」、「テストマーケティングスペース」等を想定。
- 多くの方に利用いただき、テクノロジーパーク全体の賑わい創出に寄与する施設にするためにも、民間の活力を利用し、創意工夫が図られるように整備を推進。



# 区画ごとの整備方針案

- UXイノベーションハブは既存のテクノポリスセンターをリノベーションする形で整備。それに伴い、財団は電子応用機械技術研究所に移転。また、駐車場も併せて整備。

## ① テクノポリスセンター所在地（土地：県、建物：財団）



(整備方針)  
✓ テクノポリスセンターをリノベーションする形でUXイノベーションハブを整備。

(整備方法)  
✓ テクノポリスセンターを民間事業者に売却し、民間事業者にてリノベーションを実施。  
✓ リノベーション工事後、イノベーション創発機能の部分について、県がテナント入居することを想定。

## ② 財団施設跡地（土地：県） ※現在は更地



(整備方針)  
✓ 駐車場を整備。

(整備方法)  
✓ 県有地を民間事業者に売却し、民間事業者にて駐車場整備に係る工事を実施。  
✓ UXイノベーションハブの利用者や、テクノリサーチパーク入居企業等の利用を想定。

## ③ 電子応用機械技術研究所所在地（土地：県、建物：財団）



(運営方針)  
✓ 電子応用機械技術研究所は財団が引き続き所有。  
✓ 財団執務室をテクノポリスセンターから電子応用機械技術研究所に移転し、従前の貸しオフィス機能とともに運営。

# 区画ごとの売却方針案

- ①②の県有地及びテクノポリスセンター（財団所有）については、民間事業者に売却。売却先は「UXプロジェクトの推進に資する施設整備の提案」を求めるプロポーザル公募形式で決定。
- ①②の県有地の売却予定金額は293,670千円と設定。熊本県財産審議会に価格の適否を諮問したうえで、改めて公表予定。テクノポリスセンターの売却予定金額については、公募開始時に公表する予定。



## ① テクノポリスセンター所在地（土地：県、建物：財団）

（売却方針）

- ✓ 県が土地、財団が建物を民間事業者に対して売却。
- ✓ 売却先は「UXプロジェクトの推進に資する施設整備の提案」を求めるプロポーザル公募形式で決定。本プロポーザル審査にて採択した事業者に、県・財団ともに売却。

（売却予定金額）

- ✓ 県有地：**183,000千円**（約1.7ha）

## ② 財団施設跡地（土地：県） ※現在は更地

（売却方針）

- ✓ 県が民間事業者に対して土地を売却。
- ✓ 売却先は、①の土地と同様にプロポーザル公募形式で決定。

（売却予定金額）

- ✓ 県有地：**110,670千円**（約0.7ha）

※ 売却予定金額はR5年度に実施した不動産鑑定価格にて設定。プロポーザル公募開始までに熊本県財産審議会にて価格の適否について諮問予定。

# UXイノベーションハブの整備スケジュールについて

- 令和8年度までの開設に向けて、今年度中にプロポーザル公募～審査・採択を実施したうえで、令和7年2月議会にて財産の処分に係る議案を提出する想定。
- 県有地及び財団所有のテクノポリスセンターの売買契約締結は令和7年3月中を予定。

## UXイノベーションハブの整備スケジュール（案）

R6.6	R6.7	R6.9-10	R6.11	...	R7.2-3	...	R8年度
【6月議会】 ・予算案の審議 ・経済環境常任委員会への報告	・「UXイノベーションハブ基本構想」の公表	売却のためのプロポーザル公募実施期間	売却先選定審査・採択		【2月議会】 ・財産の処分に係る議案の提出  ・売買契約締結		「UXイノベーションハブ」開所